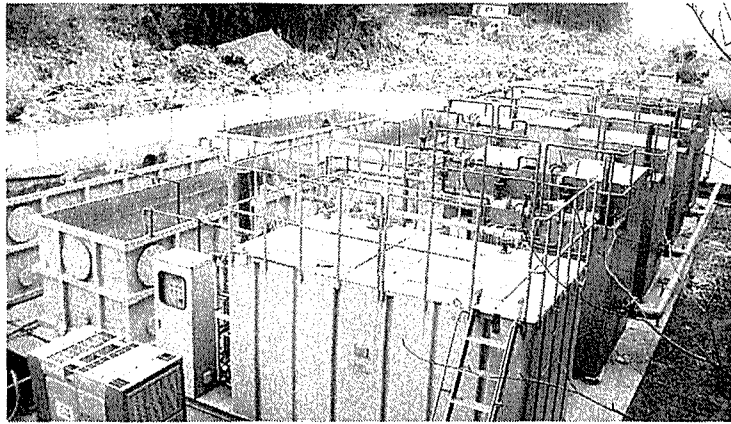


応急処理にMBRが活躍

東日本大震災の大津波で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市で、汚水処理の応急対応にMBRプラントが導入され、今週に入り稼働を開始した。

同市の陸前高田浄化センターは津波浸水で機



陸前高田市に設置したMBRプラント

陸前高田市 高い施工性が奏功

能が停止。下水道計画区域の7割以上の世帯が津波で被災したものの、被害を免れた下水道計画区域世帯の汚水処理が課題となっていた。そこで同浄化センターを管理する日立プラント建設サービスが緊急的なメニューとして同社が保有する移動式のMBRユニットを提案。二次災害や環境悪化を懸念する同市下水道課が採用を決めた。3月下旬の設置決定から直ちに同社では移動式ユニットを5基(1基あたり処理能力は日量70立方メートル、計350立方メートル)搬入し、据え付け、試験運転等を経てわずか1ヵ月弱で処理までこぎ着けた。同市高田町鳴石地区の140世帯を対象に処理を開始している。

この地域では電力が復旧していないため自家発電により処理動力を確保しており、処理水については下水管きよに接続し塩素滅菌を経て海に放流している。設置面積も560平方メートルと小さく、MBRの可搬性、省スペース性等の長所が活かされた格好だ。

東日本大震災の津波被災地域ではライフライン復旧が難航を極めており、生活用水確保が課題となっている。また、瓦礫処理の際に発生する粉じんも大きな課題となっており、MBRプラントの高い処理水質を活かした再生水利用も期待される。同市と同様に下水処理場が被災した地域の仮設住宅の汚水処理等でも導入が期待されそうだ。